



②③ 安倍首相の貢献

中国専門家の評価

「私は安倍首相を尊敬している」。

この数年、中国の研究者に真顔でそう言い切られ、びっくりしたことが何度かある。相手は日本専門家ではなく、別の国や地域の研究者だった。戦後日本には政治家を讃えるカルチャーがない。だから私は余計に驚いたのだが、それを差し引いて考えても、安倍氏の首相就任時、さらには2013年の靖国神社参拝時の中国の反応を記憶する身としては、隔世の感があった。

安倍退陣にあたり、中国外務省のスポークスマンは「彼が払った重要な努力に対して積極的な評価」を表明した。中国のネット社会も彼への賛美であふれた。これらは決して、米中関係の悪化による一時的な現象ではない。

では、中国の国際関係の専門家たちは安倍首相の何を評価していたのか。そこには、今後の日中関係のヒントが隠されていると思う。

安倍の「外交芸術」

彼らが評価していたのは、端的に言って、安倍首相は地味にすごい球を投げってくる、という点だった。友人が特に「外交芸術」と呼んでいたのは、安倍首相の「一带一路」への対応だ。

習近平政権と安倍政権は、2012年11月と12月に、尖閣3島「国有化」後の日中対立の中から誕生した。いわば因縁の間柄であり、当初は互いに警戒心が強

かった。双方は自国の正当性を証明しようとするがごとく、世界に友を求め、発展途上国への開発支援に熱を上げた。

日中関係の改善をリードしたのは、日本側だったように見える。安倍政権の粘り強い説得の末、双方は2014年11月に初会談を行い、4項目の協力合意を取り付けた。その後、少しずつ前進があった。2017年には安倍首相が積極的な対話攻勢を仕掛け、習近平訪日直前のレベルにまで日中関係を回復させた。

安倍政権の対「一带一路」政策は、かなり高度だ。中国は「一带一路」を、基本的に各国との2国間交渉で進めており、相手国にその受け入れを誓わせることをまず重視した。しかしスリランカのハンバンタ港の事件などが起き、2017年ごろにはその中身が国際的に問題視されるようになる。

そうした中で6月、安倍首相は国際交流会議「アジアの未来」の晩餐会でスピーチし、「一带一路」を持ち上げ、公開の場で初めてそれへの協力を明言した。しかしその際、彼は国際的な開放性、透明性、公正性、そして融資・借入国の財政健全性などが守られるならば、という条件をつけたのである。

中国は自国の指導者のメンツをとても重視する。そして中国の指導者は、世界

に尊敬されたがっている。安倍首相は中国に、「世界はこういうものを求めている」と明確に示し、「あなたは建設的な国だから、もちろん賛同してくれますよね？」と呼びかけ、中国の懐に入ってその考えを誘導したのだ。

安倍首相の呼びかけは、「一带一路」への見直しを進めていた中国側を大いに刺激した。2019年5月の第2回「一带一路」ハイレベルフォーラムでは習近平総書記自身が、中国はこれらの国際原則を守りながら「一带一路」を進めていくと宣言している。

中国の専門家の目から見て、これほどうまく習近平をまるめこんだ指導者は他にいない。だから彼らは、安倍首相を高く評価していたのである。

世界の動揺の中で

現在、中国と西側世界との対立は深まっている。米中摩擦に加え、香港版国家安全維持法は中国と欧州との価値観の違いを浮き彫りにした。国際秩序のあり方は、激しく揺さぶられている。

日本は西側諸国よりも、中国との間にはるかにリアルで複雑で難しい問題を抱えている。ただし日本の強みは、豊富な経験値に基づく中国への深い理解だ。世界の分断は誰にとってもマイナスで、どの国も望んでいない。

世界が抱える問題を明確に言語化し、各国にとって受け入れ可能な新たなルールを打ち立てること、中国と対立せずに、中国から建設的な関与と新ルールへの賛同を引き出すこと。こうした高度な作業が担えるのは、いまおそらく、世界で日本だけではないか。安倍首相を引き継いだ菅義偉政権に、国際秩序の再建をぜひ期待したい。

(益尾知佐子・九州大学比較社会文化研究院准教授)

建設的な日中関係に向けて